



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和7年度

学校の窓 11月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

アンパンマンの正義と イデオロギー・フリー

校長 堀内 祐子

NHK で放送されていた連続テレビ小説「あんぱん」が9月末に終わりました。このドラマは、「アンパンマン」の作者である、やなせたかし氏とその妻をモデルにしたものですが、ドラマでは戦争を体験した主人公たちが「逆転しない正義」を求める姿が描かれていました。私は土曜日にその週の総集編を観ていたのですが、観るたびに思い出していたのは、大学院の恩師が講義で、常々口にしていた「イデオロギー・フリー」という言葉でした。

講義は「イデオロギー・フリー」とは、「思想・信条・良心・価値観・倫理観・モラルは常に自由であり、全ての人はどのような思想・価値観等をもつのも自由である。」ということ、だから『正義』は個人の置かれている状況によって異なる場合があり、誰にとっても唯一の絶対的な『正義』はない。」ただし、「その正義（イデオロギー）を主張するために他人の権利を侵したり、テロのような過激な方法を選択したりすることは『フリー』ではなく、法の下で正しい選択をすることが求められる」といった内容でした。

話は少し変わりますが、今年のパリ・オリンピックでは五輪期間中、SNS 上で見付かった選手や審判等の関係者への誹謗（ひぼう）中傷の可能性のある投稿は 15 万 2000 件にも上ったとの報道を見たことがあります。SNS は、だれでも自由に意見を発信できる場ですが、SNS のアルゴリズムは、その人の興味関心に合わせて情報を選択し表示します。その結果、知らず知らずのうちに自分の意見や考え（イデオロギー）に賛同する情報ばかりに囲まれてしまうことになります。すると、異なる意見をもつ人の声からは遮断され、「自分たちの正義（正しさ）」を過剰に信じ込み、対象者を一方的に非難・攻撃する傾向が強まるそうです。パリ・オリンピックでの状況はこのような傾向に陥った人々が引き起こしたのかもしれませんが、そこには、相手の気持ちや状況、立場を思いやる心が欠如していると思わざるを得ません。また、法の下での正しい選択だとも思えません。

何年か前にデジタル・ネイティブの今の子どもたちは、それ以前の子どもたちの 500 倍以上の情報にさらされていると聞いたことがあります。しかし、その情報が偏ったものであればどうでしょうか。独りよがりの正義、相手の主張を受け入れられない独善性、思いやりの欠如につながりかねないと危惧しています。私たちは生きていく中で様々な考えや価値観に触れます。それにより多様な意見を学び、自分自身の考えを深めることができます。発達途上にいる子どもたちには、SNS がもたらす情報の洪水の中で、限られた情報に埋没するのではなく、多様な意見を学びの場と捉え、自身の視野や考えを広げる機会としてほしいと思います。また、LINE 等のグループチャットについても、その閉鎖性を起因として、ある意見が絶対的なものとなったり、同調圧力が強まったりする結果、グループ全体で物事の見方が偏ってしまう危険性があることにも気付いてほしいと思います。ちなみに、LINE は利用推奨年齢が 12 歳以上で 12 歳未満は保護者の許可が必要です。ただ、12 歳以上につきましても保護者の管理の下、安全な使い方、適切な使い方をご家庭でご指導いただければありがたいと思います。

アンパンマンの「逆転しない正義」は「困っている人に食べ物分け与えること」でした。そこにあるのは他者への「思いやり」です。将来、板橋第四小学校の子どもたちも自分なりの「正義」を見付けることでしょう。でも、その根底には「思いやり」があることを願っています。